

# 先進地視察調査報告書

令和元年 9月27日

豊岡市議会議長 関貫 久仁郎 様

会派名 とよおか市民クラブ  
代表者 代表 嶋崎 宏之

次のとおり、先進地視察調査を実施したので報告します。

調査先名	①浦添市役所 こども未来部こども政策課 ②那覇市議会 議会改革推進会議 ③那覇市歴史博物館
調査期間	令和元年 8月19日(月)～21日(水)
調査参加議員名	嶋崎 宏之 伊藤 仁 井上 正治 福田 嗣久 松井 正志 計 5名
調査内容	別紙のとおり
支出した政務活動費の額	430,900円
その他	

## 会派「とよおか市民クラブ」先進地視察調査報告

1. 日 時 令和元年8月19(月)～21日(水)
2. 視 察 先 沖縄県浦添市、那覇市
3. 視察参加者 嶋崎 宏之、伊藤仁、井上正治、福田嗣久、松井正志

### ◆浦添市

#### 【調査項目】

☆ 子どもの貧困対策の取り組みと現状について

#### 【調査内容】

##### 1. 子どもの貧困の現状

ひとり親家庭貧困率、就学援助率、子どもの貧困率(調査していない)は公表不可。  
不登校：小学生 8.19人、中学生 41.94人(千人当たり)H30

##### 2. 子どもの貧困対策

###### (1) 沖縄子どもの貧困緊急対策事業の概要・実績

～地域共生社会の視点で考える～をコンセプトに

- 「子供の居場所運営事業」「子供の貧困対策支援員配置事業」の2本立てで対策を推進している。
- 子供の居場所運営事業の取り組み  
地域の方々(任意団体、自治会、法人等)が「必要」「やりたい」という地域の実情に応じた「子供の貧困対策を目的」の活動に必要な費用の一部または全額を補助している。

※対象者 おおむね18歳以下の子供

主に生活保護世帯の子供であるが、それ以外の子供も利用可。

※活動内容

- ・食事の提供、共同調理、
- ・生活指導(衛生保持、整理整頓、挨拶などの生活習慣や対人関係の指導)
- ・学習支援
- ・キャリア等形成支援(進学に対する意識向上や商業観の形成のための指導)

※実 績	居場所団体数	利用者数(年間延べ人数)
平成28年度	13団体	18,424人
平成29年度	16団体	34,856人
平成30年度	17団体	34,886人

- 子供の貧困対策支援員配置事業

子供の貧困対策支援員(てだこ未来応援員)を配置して、学校や関係機関(CSW)と連携を図りながら問題を抱えた子供に対して必要な支援・機関につなげる支援を行っている。

※てだこ未来支援員(11人)

各中学校区(5校区)2人ずつ+アシスタントマネージャー1人

※CWS(10人)

各中学校区(5校区)2人ずつ

地域で長年の活動実績があり、地域の人、地域の事を熟知している

- ・CSWからの情報(民生委員、自治会、児童センター、友達、保護者)



てだこ未来応援員：子供の現状・課題の把握がスムーズにでき適切な支援に繋ぎやすくなる。



支援の必要な子供にアプローチ

※実績	支援した人数（実人数）
平成28年度	195人
平成29年度	235人
平成30年度	219人



繋いだ場所（平成30年度）◎複数カウントあり		
子供の居場所	行政	学校・教育委員会
51人	9人	160人

※CSWと共に、子どもに支援に向けた新たな仕組みづくりに取り組む。

## (2) 決算額

平成28年度	60,768,738円
平成29年度	79,896,113円
平成30年度	75,315,676円

## 3. “ていーだこども食堂”の取り組み

食堂代表 梁 裕之 氏（浦添小学校PTA副会長）から直接話を聞く。

### (1) 食堂が始まった背景や現状、運営方法、課題など

#### ●市内でネグレクトの子どもとの出会い



※万引きの裏に、ネグレクト受けている児童、中学生の不良グループに誘われ犯行をしていた現状があった。冬空にタンクトップで震えながら授業を受け、給食しか食事が無い。靴もない。



何ができるかの模索⇒PTAとして何ができるかの模索

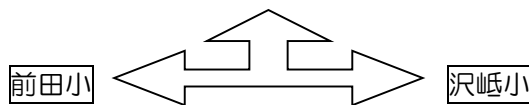


#### 衣服の支援を行おう

※服の支援を受けた子が、特定されないように自校で集めた服は他校に、他校から集めた服を配る。「衣服のユイマール」を行う。中校区（3小学校）PTA連携事業の実施「ハッピーギフトを贈ろう」2013年スタート継続中。

浦添中学校中校区

浦添小



#### ● 給食がない日にご飯が食べれない子供がいる。なんとかしたい！

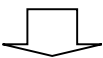


#### 「ていーだこども食堂」の誕生。H27年

##### 【活動方針】

～こどものココロを温めることに徹する～

自尊心を回復し、自立への学びを促し、こころと身体を休める居場所を提供し、自己肯定感を育む。もって地域の健全育成に寄与することを目的とする。



こどものココロを温めることに徹する。

【反省】平成27年度～平成29年度

何とかしてあげたい気持ちが高じた一部のスタッフによる、様々な問題発生。

～こどもファーストであれば何をしてもいいのか～

- ① ランドセル来館制度が家庭の現実にそぐわない？⇒条例が間違っているの、条例を黙って破る。
- ② いつでも食べたい料理を作ってあげたい。⇒会のルール（食事の時間など）を、黙って破る。
- ③ 黙って、家出少年少女に、毎日ご飯をあげる。⇒専門機関との連携がなく、家出助長となった。

～活動の原点回帰をしよう！～

- ① 過剰なこども食堂で、メンバーが疲弊して離脱
  - ・平日の月曜から金曜は毎日晩ご飯、夏休み・冬休み・春休みと土曜日は毎日昼ごはん・おやつ・晩ごはんをつくる。
- ② 甘えるこども
  - ・こども自身の自助力が育ちにくく、厚生も進まない現実。
- ③ 甘える親
  - ・過剰なサービス提供を、当たり前として要求してくる。

～3年間の活動で気づいたこと～

- ① ターゲットは、貧困の世帯のこどもに、こだわろう。
- ② 事業の継続のために、過剰なサービスはやめよう。
- ③ 規範やルールや道徳を身に付けさせることに、こだわろう。

【平成30年からの方針】

- ① オープン型こども食堂（誰でも参加可能）  
対象：小中学生、参加費：無料（お手伝い、共同作業をする）
  - ② クローズ型無料塾（中学校と連携選別）  
対象：経済的な困窮世帯、かつ頑張っている普通の子  
目的：希望する高校へ進学させ、将来への選択肢を広げる⇒将来 正規雇用として納税者へ。  
条件：無料塾への登録には、生徒の3者面談を必須で行う。
  - ④ その他  
社会見学会、中学校区小学校連携事業、学びの場（マナビ・バ）の提供合計 5事業。
- 通っている子供の現状2018  
ひとり親、DV、情緒不安定、リストカットなどさまざまな状況にあるこどもが通っている。

【子どもの居場所の課題】

地域の自治会やNPOが中心となり始まった善意の活動

- ・想いで動く
- ・主観的な思いに陥りやすくなる・・・
- ・活動への理解が無くなり、ダメになっていく・・・

・・・〈不足〉

- ① 人×モノ×資金×情報を、正しく集めて、運営することが必要
- ② 企画・設計・マネジメントが必要

#### 【ていーだこども食堂の収入】

寄付、助成金など

平成27年度	381,125円
平成28年度	1,696,033円
平成29年度	5,006,929円
平成30年度	4,556,929円
平成31年度	3,947,000円（見込み）

- 食堂運営以外に浦添市小学校のPTA活動の取り組み

※子供の居場所支援会議

～こどもの貧困への対策は、未来への投資～

#### 4. 子どもの居場所づくりについて

- 民間が行っている居場所づくりの現状や市の支援

平成28年度	25,972,862円
平成29年度	37,562,312円
平成30年度	44,449,745円

#### 5. 子ども貧困対策支援員の活動内容や予算措置

平成28年度	33,221,156円：スタート年、委託
平成29年度	42,033,702円：委託
平成30年度	30,232,476円：子ども政策課で直営に変更

#### 6. 森の子児童センターの役割及び現状について

- 一般社団法人「まちづくりうらそえ」：自主運営
- 森の子児童センターの日々  
社会に出て行く人を1人でも多くする⇒ニート、引きこもり等の対応  
食事の提供、生活指導、学習支援、キャリア育成

#### 【所感】

浦添市は、人口44,041人（H27国調）、面積19.48km<sup>2</sup>に小学校11校中学校5校を有し、出生率は1.84（H29）であるが少子化が進み、不登校生が多い。子どもの貧困率、ひとり親貧困率、就学援助率は、公表されていない。

しかし、子どもの抱える現状については、さまざまな支援を必要としている状況を分析しつつ対策が進められている。

豊岡市と単純に比較できないが、地域住民が主体となったさまざまな取り組みと行政からの支援体制が充実している。また、地域と行政が共に、子どもが置かれている現状を見極め、多くの地域に子どもの居場所が開設され、子どもファーストで細やかな対策が実行されている。

子どもの貧困に対する対策は、未来の投資なり！地域民の取り組みと行政の施策は参考にすべきである。

## ◆那覇市

### 【調査項目】

☆議会改革の取り組みと現状について

### 【調査内容】

#### 1. 議会改革について

##### ●那覇市議会

- ・那覇市：人口約32万1094人（H31.3） 面積 39.98km<sup>2</sup>
- ・平成25年度より中核都市
- ・議員定数40人※女性議員9人
- ・議会改革度ランキング  
日経グローバル：2014年 89位、2018年 2位  
早稲田大学マニフェスト研究所：2017年 44位、2018年 20位

##### ●議会改革の取り組み

#### 1. 議会改革のきっかけ

- (1) 全国的な議会改革の流れ
- (2) 外的要因 ①新庁舎建設（新議場建設）②中核都市への移行

#### 2. 市議会の現状

##### (1) 議員から見た現状

- ① 良い点：議会質問が活発、質問回数は全国トップクラス
- ② 課題点：「与野党」対立型で、議会全体の合意形成がうまくできていない。

※市民の多様な意見を反映できていないのでは？

##### (2) 市民から見た現状（市民アンケート〈H24実施〉等

- ① 市長（行政）に比べて議会は関心が低い。
- ② 何をしているかわからない。
- ③ 遠い存在、身近に感じない。

##### (3) 目指す方向性

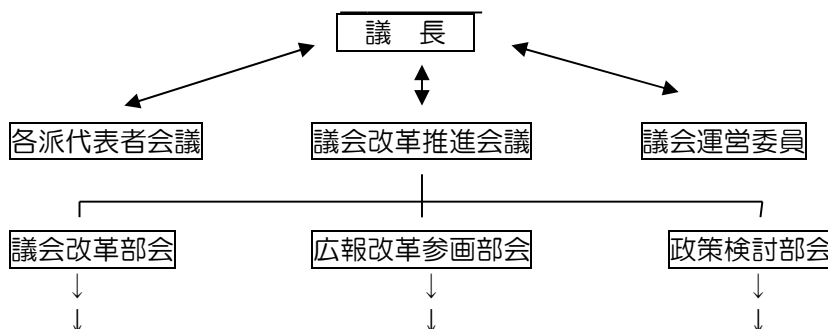
- ① 提案型の議会：行政に提案し実行させる権能を持つ議会  
⇒会派や「与野党」を超えた議会としての合意形成機能が必要。
- ② 市民参加型の開かれた議会  
⇒情報公開を進め市民意識の高まりに対応できる議会。

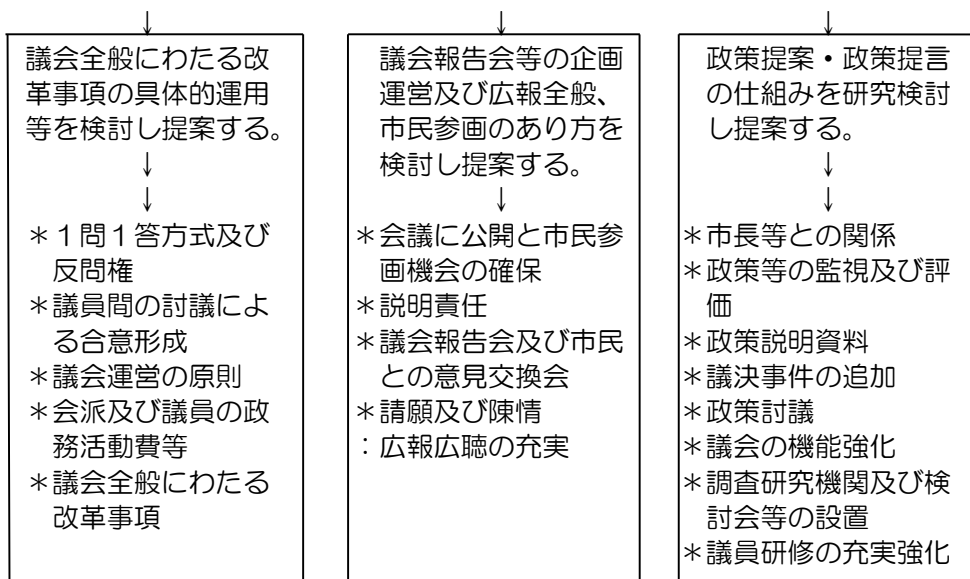
##### (4) 平成24年12月に議会基本条例制定。

- ① 議場での議員個人の賛否を公開
- ② 議会報告会を毎年開催し意見交換会を設定する。

##### ●議会改革の推進

①第8章第25条により継続的な議会改革に取り組む⇒議員で構成する推進組織を設置する。





※全議員がどこかに属する。

※手引書を作成。

## ②3部の活動

◆議会改革部会⇒ICTの導入、政務活動費の使途基準

◆広報参画部会⇒議会報告会の開催

◆政策検討部会⇒議員提案の政策づくり：「めんそーれ那覇市観光振興条例」H27.4制定

## 2. 議会改革の検証

●基本条例に基づき制定後初の検証のため全議員へ検証シートによるアンケート（H30.11）を実施し、その結果をもとに各条文について所期の目的が達成されているか、課題は何か、検証を行う会議体はどこか等協議をしてきた。

◆検証体制について

・議会改革推進会議 12人

・参考資料の検証シートを基に、計7回の検証作業を行う。

●検証結果

◆令和元年6月 那覇市議会基本条例 検証結果報告書が提出される。

◆今後の取り組みについて

⇒第9条、第14条、第19、第31条などの一部条文については、令和2年2月定例会に議案提出（都市計画マスタープラン）予定終了後をめぐり、改正検討を行う。運用改善が必要な項目は、各会議・部会で議論を深め改善に取り組む。本年8月予定の組織改編の際は、改善の取り組みの経過、課題など申し送り議会改革を継続する。

## 3. 議会ICT化及びタブレットの導入について

◆タブレット導入の経緯

⇒平成26年1月議会運営委員会で先進地を視察、その後議会改革部会で視察、導入に向け協議を本格化、平成27年10月議会改革推進会議で導入を決定。平成28年度開始に向け準備。平成28年4月運用開始（ICTに詳しい議員がいる。）。

◎タブレット端末は貸与：「那覇市議会タブレット端末使用基準」を作成。

※個人所有のタブレットでも議長への届出で使用可。

◎基本的に議場、委員会室にかかわらず使用可、庁外でも携帯を

- ◎費用は公費負担⇒（案分の案ありー議論ある）
- ◆ICT化・タブレット端末導入のメリット：「議会運営の効率化」と「ペーパーレス化」
  - ◎会議中の質疑応答で出てきた法令や計画等をその場で確認でき、議会運営の効率化に役立っている。
  - ◎事業・予算などを市民へわかりやすく速やかに説明することができる。
  - ◎議案書など多量で重い紙資料をタブレットに収められ、携帯にも検索にも便利。
  - ◎ペーパーレス化でコスト削減（紙ベースは120cm/1人の高さ）と環境負荷の低減。  
※タブレット端末は、議会しか持っていない。ペーパー資料は会派に1冊。
- ◆ICT化・タブレット端末」導入の経費及び削減効果等
  - 〈運営経費（年間）〉
  - ◎タブレット端末通信費
  - ◎クラウドサービス料  
〈削減効果（平成29年度予算書ベース）〉
  - ◎ファクシミリ電話回線基本料等
- ◆今後の課題
  - ◎執行部幹部職員へのタブレット端末の導入
  - ◎有効活用のための議員のスキルアップ  
⇒レベル別に2回開催、議会報告会に役立つ。
  - ◎ランニングコストの負担についての検討  
⇒政務活動費での案分負担など
  - ◎その他  
⇒防災・災害への活用：対策本部を議場に置く：円形の議場は良い。

#### 4. 那覇市歴史博物館

- 昭和36年に「那覇市史」の編集発行を目的とした市史編集事業が母体となってスタートした組織である。市史編集事業開始以降50年余にわたって「那覇市史」33巻を始め付属刊行物、図録等を刊行する。  
所蔵資料は、「国宝 琉球国王尚家関係資料」、横内家資料等、9万点を有している。  
今回は、企画展「那覇のたからもの」として、交流のたからもの、土地の記憶のたからもの、先輩たちのたからものを説明案内を受ける。  
那覇市の歴史を物語る貴重な古文書、家譜、美術工芸品等普段見られない経験を見聞することができ有意義であった。

#### 【所 感】

那覇市の歴史は古く、交流の拠点として栄え独自の文化を形成してきた。その後、さまざまな苦難の歴史を経て、昭和47年に本土復帰により議会として再出発し、県内の先導的役割を担ってきた。

議会基本条例は、平成25年4月に施行。また、条例に基づき各種実施要綱を定め執行されている。議会改革については、「議会改革推進組織」などを設置し、全議員に対してアンケート（H30）の実施など検証を行い、議員の政策提案に繋げている。また、議会ICT化に早くから取り組まれている。市民目線を捉え、議会の果たす役割を果敢に進めていることが全国での高評価に繋がっていると思う。豊岡市議会も多種多様な課題解決に向け一層の議会改革の必要を再確認した先進地調査であった。





浦添市役所にて



浦添市議会議場にて



比嘉局長・仲本主幹から説明を受ける



子供の貧困対策について学ぶ



那覇市役所にて



前泊・上原議員から説明を受ける



議会改革の取り組みについて学ぶ



那覇市議会議場にて